

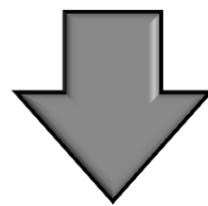
小中学校の適正規模・適正配置に関する考え方について

【子どもたちにとって望ましい学校を実現する小中学校の適正規模・適正配置を進めるうえでの基本原則】

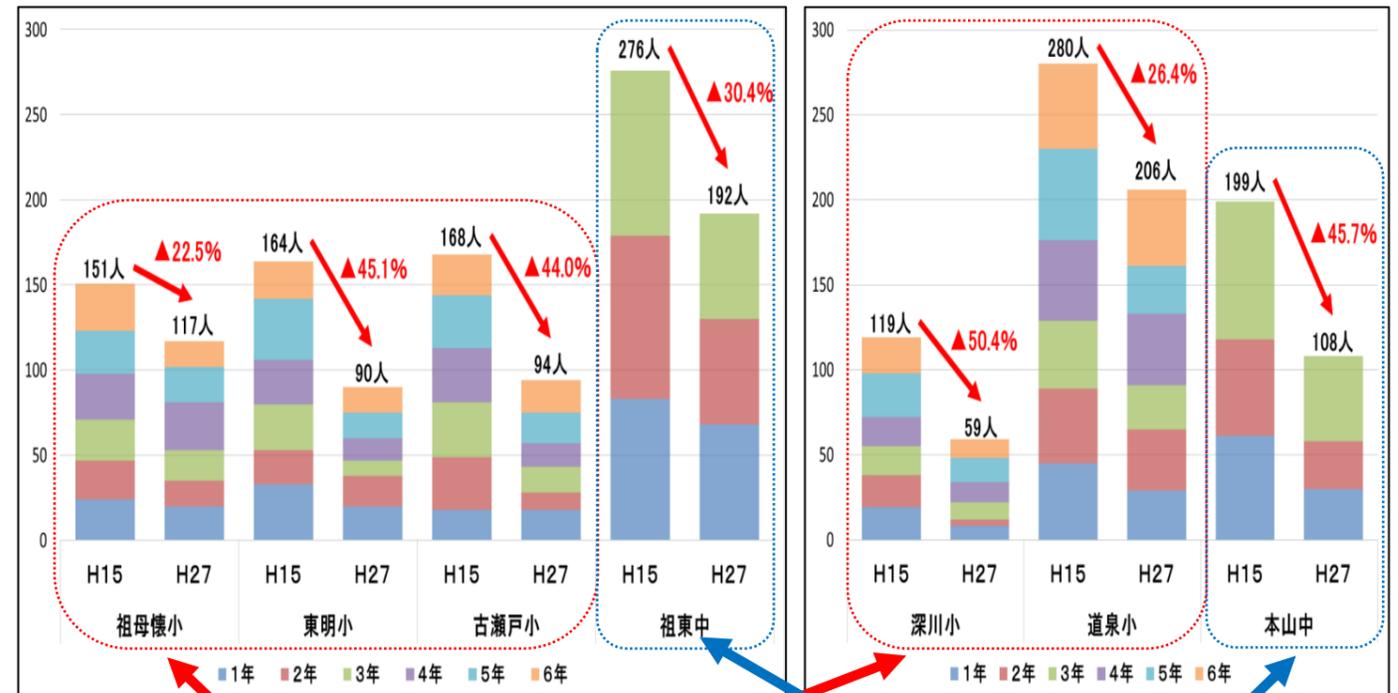
- ◆ 小学校で6年間一度もクラス替えが出来なかったり、中学校で部活動が成立しないといった、学校間の規模の格差を解消し、子どもたちが『より良好な教育を受けられる環境整備』を早期に実現することを目指します。
- ◆ 少子化による課題と共に、老朽化が進む一部の小中学校については、本市が最優先に取り組むべき喫緊の課題であることから、モデル地区を定めて、小中学校の適正規模・適正配置の実現に向けて取り組みます。
- ◆ モデル地区以外の地区についても、適正規模・適正配置は、地理的な条件や物理的な条件により、市域全体の教育環境の改善を実現する方向を示します。
- ◆ 適正規模・適正配置を実現する手法の1つとして、新しい教育環境の創造を目標とした「小中一貫教育の場」の実現を目指します。

【現状の課題】

- 瀬戸市における学校間の規模の格差是正と、子どもたちにとって望ましい学校像のあり方をテーマとした「瀬戸市立小学校適正配置計画策定検討委員会」の答申を平成14年7月に受け、平成15年3月に策定された「瀬戸市小学校適正配置計画」は、具体的な進展をみないまま13年が経過しています。
- この間、祖東中学校区の祖母懐小学校、東明小学校、古瀬戸小学校と、本山中学校区の深川小学校、道泉小学校では、計画策定時よりも更に児童・生徒数の減少が進み、小学校で6年間一度もクラス替えが出来なかったり、中学校で部活動が成立しないといった、“子どもたちの教育にとって望ましくない教育環境”への対策は、喫緊の課題となっています。
- また、近年では、いじめの認知件数や不登校児童生徒数が中学校1年生になったときに大幅に増える実態等（中学校1年生段階の段差、いわゆる中1ギャップ）への対応策も必要であり、その解決策として、義務教育期間（小学校から中学校）の連続性を持った教育環境の整備も、解決すべき課題となっています。
- 更に、瀬戸市の小中学校には、概ね50年といわれる施設の耐用年数が迫っている施設もあり、瀬戸市の未来を担う子どもたちに、安心・安全な環境を確保する必要があります。



児童・生徒数の減少による“子どもたちの教育の課題と、いわゆる中1ギャップや施設の老朽化への対応といった社会的な課題”に対して、できる限り早く改善していく必要があります。



- 児童数の減少が進み、小学校で6年間一度もクラス替えが出来ない。
- 今後も、大幅な増加は見込めないと予想される。

- 生徒数の減少により、中学校では、クラス替えが出来ない、望む部活動ができない、専任の教員が配置できないという状況が生じている。

小中学校の適正規模・適正配置のモデル地区選定に関する考え方について

【モデル地区の選定：適正規模の視点】

〈1,000人規模を目安〉

小学校：6学年×3学級＝18学級

中学校：3学年×3学級＝9学級

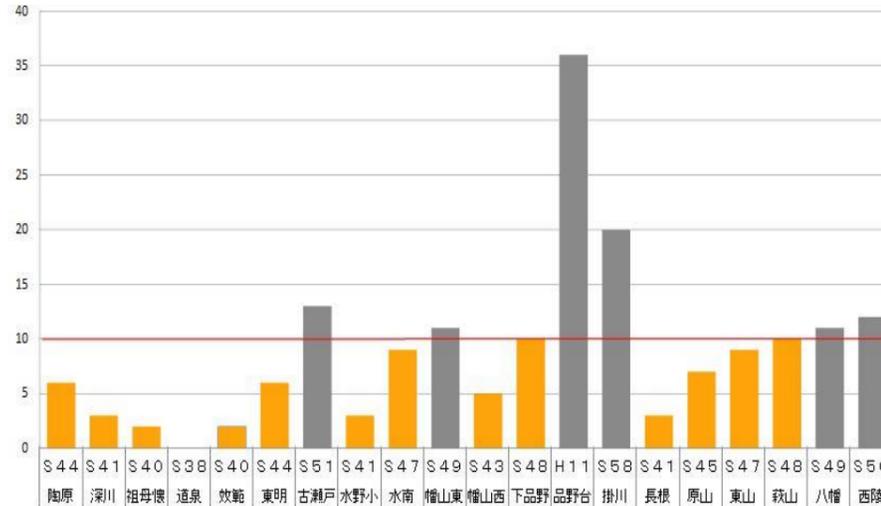
平成27年5月1日現在 児童・生徒数一覧

中学校名称	生徒数(人)	小学校名称	児童数(人)	小学校名称	児童数(人)	小学校名称	児童数(人)	小中合計(人)	1,000人未満
水無瀬中学校	598	陶原小学校	620	長根小学校	491			1,709	
祖東中学校	192	古瀬戸小学校	94	祖母懐小学校	117	東明小学校	90	493	○
南山中学校	967	效範小学校	584	東山小学校	875	水南小学校	543	2,969	
本山中学校	108	道泉小学校	206	深川小学校	59			373	○
幡山中学校	577	幡山東小学校	451	幡山西小学校	596			1,624	
品野中学校	255	下品野小学校	452	品野台小学校	78	掛川小学校	30	815	○
光康中学校	291	原山小学校	264	萩山小学校	141	八幡小学校	284	980	○
水野中学校	479	水野小学校	398	西陵小学校	715			1,592	

【モデル地区の選定：施設寿命の視点】

学校施設の寿命を50年（RC造の耐用年数）と仮定すると、今後10年以内に8割（23校/28校）の学校施設が寿命を迎えることになります。

既設小学校の寿命グラフ



【モデル地区の選定：適正配置の視点】

他都市の先進事例を見ると、人口密度が高い地区を対象とする場合に、既存の学校施設を使用しながら新設をすることは物理的に困難であり、そうした要因によって適正規模・適正配置が進まないと言われています。

そこで、そうした阻害要因の解消策として、都市公園を新しい教育環境を創造する空間として活用することを提案します。

公園番号	公園名	中学校区
4.5.101	磁祖公園	本山中学校
5.5.103	南公園	水無瀬中学校
5.5.105	東公園	祖東中学校
6.5.102	市民公園	南山中学校 水野中学校
8.5.101	陶祖公園	祖東中学校

考慮すべき要因

- 都市公園区域内に大規模な公共建築物があり、既存施設の移転が必要な候補地を除外
- 学校施設の新規整備前に、新たに道路の新規整備等が必要

適正規模・適正配置を実現するモデル地区

東公園内に、既存の小中学校を統合して新たに小中一貫校を創設することで、未来を担うこれからの世代のための教育環境を整えることを目指します

子どもたちが、適正な規模の集団の中で切磋琢磨しながら学ぶことで、

- これからの社会に一層必要となる「自ら考え、学び、生き抜く力」を育みます。
- 多様な学習活動や学校行事を展開することで、豊かな人間性を育みます。
- 部活動の充実、学習以外の活動への自主的な参加を実現します。



小中一貫教育による、魅力ある学校をつくることで、

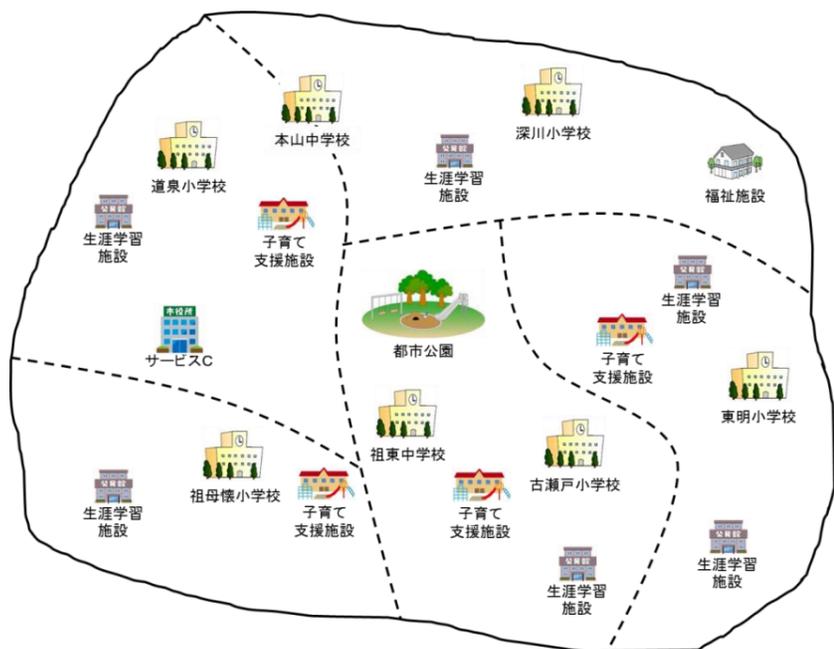
- 9年間を見通し一貫した教育課程・教育指導により、子どもたちの学力・体力・情操を伸ばします。
- 異学年交流や相互乗り入れ授業等を取り入れ、子どもたちの自己有用感や規範意識などの社会性を養います。
- 小中校相互の教員が日常的に交流することで、新たな課題への対応力や指導力の向上を図ります。

モデル地区での既存の小中学校を『新しい地域コミュニティの拠点』へと進化させるまちづくりの提案について

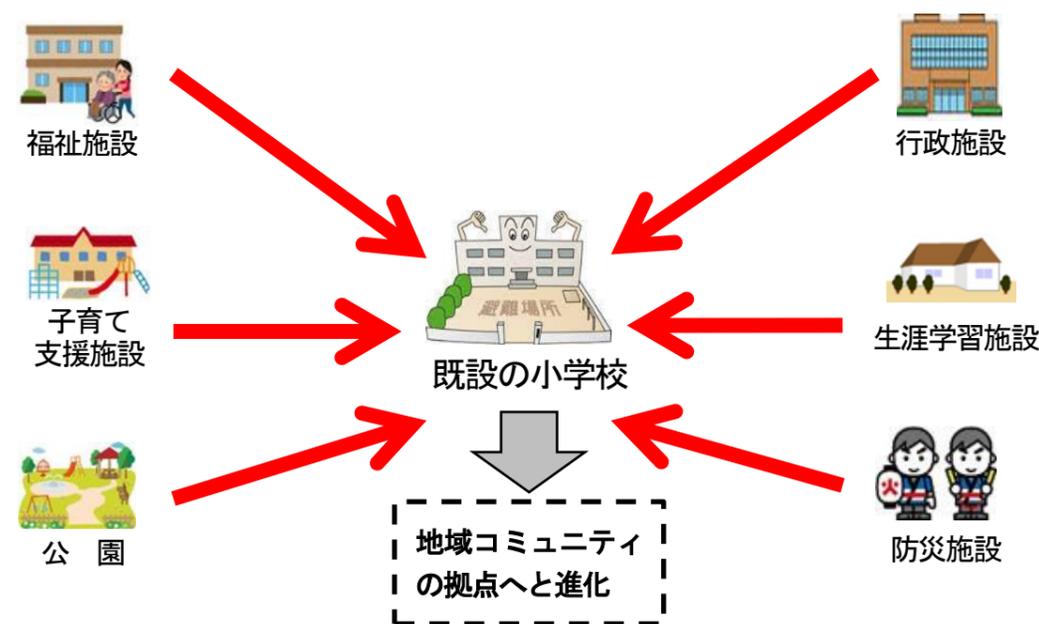
【既存の小中学校を活用した新たな拠点づくりを進めるうえでの基本原則】

- ◆ モデル地区における新しい教育環境の創造の実現によって、既存の小中学校は、未来を担う子どもたちの学習の場という役割を全うすることになります。瀬戸市では、そうした既存の小中学校を、他都市の先進事例のように廃止や取り壊しするのではなく、地域の中心的な場所に位置しているという『地の利』を活かして、地域に点在している福祉施設、子育て支援施設、生涯学習施設、防災施設といった様々な機能を集約することで、新たなまちづくりの拠点として生まれ変わる未来志向型のまちづくりを提案し、市民の皆さんと議論を深めていきます。
- ◆ モデル地区においては、本市が掲げる『機能は減らさず、施設の総量を減らす』を与件として、瀬戸市の未来に必要な公共施設のあり方を地域の皆さんと議論を深め、実行に移していく過程を通して、『成熟都市における社会的な課題解決の道しるべ』となる手法の確立を目指します。

これまでは……1機能1施設型



これからのまちづくり……機能を減らさず複合型へ転換



新しいまちづくりを実現するための思考

将来の生活スタイルを市民の皆さんと共有し、全ての市民に対して、良好な生活環境が提供できることを目指します。

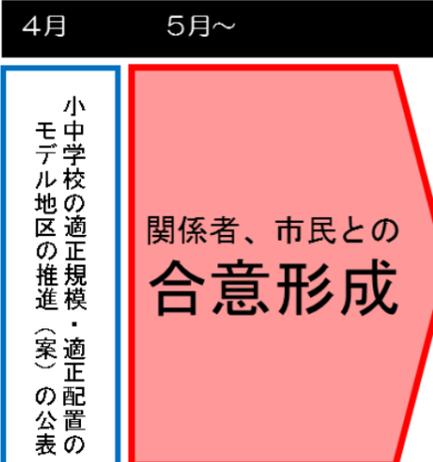
先進的な取り組みを、より早く実現することにより、市民の定住化と他地域からの転入を促進する取り組みを目指します。



新しい形の地域コミュニティづくりを議論する中で、『新たなまちづくりの基準』を構築することを目指します。

既成概念にとらわれず、あえて『難しい』、『できなかった』ことに挑戦し、社会的な課題を解決へと導く仕組みを構築します。

これからの取り組み



関係者や市民の皆様との対話を通して、モデル地区での既存の小中学校を「新しい地域コミュニティの拠点」へと進化させるまちづくりを実現するための取り組みを進めていきます。